



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学附属図書館かわらばん No.10

メタデータ	言語: ja 出版者: 東京学芸大学附属図書館 公開日: 2023-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京学芸大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50889/0002000170

ご存知ですか？ OPEN ACCESS

Q オープンアクセスってなんですか？



オープンアクセスは、研究成果や学術情報などが無料で誰でもアクセスできる状態を指します。つまり学術論文などを、誰でも自由に閲覧できる仕組みです。

Q どうしてオープンアクセスが重要なのですか？



まず第一に、オープンアクセスは、知識や情報への平等なアクセスを提供します。誰もが最新の研究成果にアクセスできるため、研究者や学生、一般の人々が学び、研究を進めるのに役立ちます。さらに、研究成果の可視性を高め、共有を促進します。これは科学の進歩を加速させ、イノベーションに繋がります。

Q どうやったら自分の論文をオープンアクセスにできますか？



論文をオープンアクセスにする方法は大きくわけて2つあります。1つは、論文を「機関リポジトリ」にアップロードすることです。また、論文をオープンアクセスジャーナルに投稿することでオープンアクセスにすることも可能です。

Q オープンアクセスについて、学芸大では、どのような取り組みをしていますか？



東京学芸大学
リポジトリ



学芸大では「[東京学芸大学オープンアクセス方針](#)」を策定して、オープンアクセスの推進に取り組んでいます。また「[東京学芸大学リポジトリ](#)」を運用して、多くの論文をオープンアクセスで公開しています。論文をオープンアクセスにしたいと思ったときは、いつでもご相談ください！



東京学芸大学
オープンアクセス
方針


開催報告 2023年度春学期 入門セミナー


2023年4月～7月の期間に、学部1年生対象の授業「入門セミナー」内にて、附属図書館職員が講師となり、図書館ガイダンスを実施しました。今年度からのカリキュラム改訂にあわせて新たな内容で実施しました。受講した学生からは、「図書館をもっと使いたくなった」「これから4年間図書館を活用していきたい」などの声が寄せられました。

実施回数

- | | |
|------------------------|-----------|
| ①図書館ガイダンス | 12回 |
| ②図書館ガイダンス＋
文献検索セミナー | 24回 |
| ③会場提供のみ | 1回 |
| 計 | 36 (37) 回 |

実施内容

 図書館ガイダンス
大学での「学びのサイクル（探索→整理→表現）」に合わせて図書館の機能や利用方法を紹介。館内ツアーあり。

 文献検索セミナー
図書や論文の検索方法について実習を交えながら、データベースの使い方などを紹介するセミナー。

資料

今年度使用した資料は、下記ページにて公開しています。

図書館Webサイト>学習・研究支援
>講習会>[2023年度入門セミナーの資料](#)



図書館活用セミナー のご案内

附属図書館をもっと有効活用できるようになりたい方へ。図書館職員が講師となり、授業1コマ分を使って「図書館活用セミナー」を実施いたします。本セミナーを通じて、図書館の利用方法・文献調査の方法・各種データベースの利用方法などを知っていただき、大学での学び・研究に役立ててほしいと思います。

教員のみお申込みが可能ですので、受講をご希望の場合は授業やゼミをご担当の教員に相談してみてください。



下記のページも併せてご覧ください。



[東京学芸大学附属図書館HP](#)
「講習会」

2023新入生歓迎企画 「学芸本ガチャ！」 を実施しました！

普段出会わない本との出会いおよび電子ブックの利用促進を目的として、2022年から定期的で開催しています。今回は、新入生歓迎企画として4月12日～7月25日に実施しました。学芸大生がよく借りる本、そして電子ブックの利用方法について、知ってもらう機会となりました。

-  リアルガチャ：2022年度貸出冊数
トップ30
-  オンラインガチャ：新たに
【「学校」を考える】
のガチャを設置



次回も皆さんのトライ
お待ちしております！
お楽しみに～

【開催報告】[2023新入生歓迎企画「学芸本ガチャ！」を開催しました！](#) (2023-08-01掲載)

2023年春学期学習サポート活動報告

学習サポート展示「新書ZOO～教科編～」

「新書ZOO～教科編～」が6月23日から図書館1階ラーニングcommonsにて開催中です！
昨年度の展示「新書ZOO」が教科編として帰ってきました。今回は学校の教科に焦点を当て、学習サポートが選んだ新書が展示されています。教科ごとに並んでいることで、学芸大生の皆さんが新書に触れる入り口としてさらに親しみやすい展示となりました。来場者がお気に入りの新書を推薦するコーナーもありますので、ぜひお立ち寄りください。



デジタル教科書セミナー

昨年度に引き続き、令和5年度もデジタル教科書セミナーを開催中です。春学期には6月28日、7月12日の2回、セミナーを行いました。

セミナー当日は、参加者の学生・教職員による活発な意見交換が行われました。デジタル教科書に触れながら、活用方法を具体的に考えることができる充実したセミナーとなりました。また、学習サポートの中には、初めてデジタル教科書に触れたという学生もいましたが、本番までに資料作成や発表準備を通じて学習サポート自身もデジタル教科書への理解を深めることができました。

セミナーが行われていない間も、デジタル教科書は自由にご覧いただけます。図書館ラーニングcommonsの教科書コーナーに設置されていますので、そちらも併せてご利用ください。秋学期も引き続き、学習サポートによる展示・セミナーの開催が予定されています。

詳しい予定などは図書館ホームページに随時掲載予定ですので、そちらをご確認ください。



Column

電子ジャーナル活用方法～探し方・使い方・学外からの利用～

東京学芸大学では、約9600誌の電子ジャーナルが利用できます。学習・研究にぜひご活用ください！

探し方 附属図書館ウェブサイトにある検索窓で「電子ジャーナル・電子ブック」タブを選択してください。タイトルを入力して検索できます。

使い方 電子ジャーナルは、PC・タブレット・スマートフォンで利用できます。学内ネットワークに接続している機器から利用可能です。

学外からの利用 一部の電子ジャーナルは学外からの利用も可能です。学芸大のネットワークアカウントで認証を行い、電子ジャーナルへアクセスします。
※学内者（本学に在籍する学生・院生・教職員）限定のサービスです。

詳しい説明 附属図書館ウェブサイト「[電子ジャーナル・電子ブック](#)」をご確認ください。



[電子ジャーナル・電子ブック](#)

附属学校のデジタル書架ギャラリーを公開！

当館では、書架の画像をWeb上で見ることが出来る「デジタル書架ギャラリー」を公開しています。これまでは大学図書館のみでしたが、この度、本学附属世田谷中学校そして、附属小金井小学校の学校図書館版デジタル書架ギャラリーも公開いたしました。

デジタル書架ギャラリーのトップページには、分類ごとの目次を設置し、分類をクリックすると該当のデジタル書架ページを見ることができます。書架の画像データはオープンデータとして公開していますので、ダウンロードして自由にご利用いただけます。

学校図書館のデジタル書架ギャラリーと大学図書館のデジタル書架ギャラリーを見比べることで学校図書館と大学図書館の資料の違いが見えてきます。学びの場としての学校図書館の一端をデジタル書架ギャラリーから感じてください！

【附属世田谷中学校】3類②・4類①



戻る (戻る) 次へ (次へ)

デジタル書架へのリンク

附属世田谷中学校図書館の書籍を登録・追加・削除できるようにしました。同じ区分分類番号をクリックすると書籍画像も見ることが出来ます。また、東京大学図書館版をクリックすると、拡大表示出来ます。
※図庫は2022年11月14日に更新したものです。



[デジタル書架ギャラリー](#)

出版社による デジタル教科書講習会 「デジタル教科書で授業が 変わる！」の開催報告

本学ICTセンターおよび附属図書館では、大学教員と、大学教員の指導のもとで学生が利用できるデジタル教科書の整備を進めています。その一環として、教科書会社の方をお招きし、デジタル教科書講習会を実施しています。今年度も「デジタル教科書で授業が変わる！」と題して、全2回開催しました。第1回は、4月12日に大日本図書の方をお招きし、小学校理科を例にご講演いただきました。第2回は、5月10日に教育出版の方から小学校英語と国語を紹介していただきました。

各回とも実習の時間があり、参加者自身のパソコンでデジタル教科書进行操作し、様々な機能を学べる機会になりました。デジタル教科書を使ってみたい方は、ぜひ附属図書館でお試しく下さい！



「東京学芸大学附属図書館 ＜未来の先生支援＞古本募金」 購入図書紹介

「東京学芸大学附属図書館＜未来の先生支援＞古本募金」プロジェクトで集まった寄付金を利用して、令和4年度は「ICT教科教育関係図書」として72冊の資料を購入しました。学校現場で急速に進みつつあるICT活用やGIGAスクール構想に関連する資料のうち、入門的な内容の資料、実践報告、各教科の実践事例・実践方法に関する資料などが含まれています。ぜひ大学での学習、研究、また教育実習等にもご活用ください！



[図書リスト](#)



[古本募金事業](#)

「デジタルアーカイブを活用して授業で子どもたちの「問い」を引き出す「教材化」ワークショップ」開催報告

2023年8月24日（木）、Explayground Dolphin主催により附属図書館1階アクティブエリアを会場に、「デジタルアーカイブを活用した「教材化」ワークショップ」を開催しました。学内外から20名の参加者が集まり、6つのチームに分かれて教材作りに取り組みました。

講師の大井将生先生（人間文化研究機構・東京大学）、宮田諭志先生（成城学園初等学校）からデジタルアーカイブを活用した教材作りの可能性や実践例をご紹介いただき、当館高橋菜奈子課長からは国内外のデジタルアーカイブの紹介、コンテンツ二次利用の説明を行いました。

楽しく活発に作業が進められ、古典や地理、歴史、理科等の教材が作られました。例えば教材「和歌と月」は、月を詠んだ百人一首の浮世絵から月や時間についての問いを投げかけ、小学校理科「月の形とその変化」の学びにつなげます。

最後に発表、意見交換を行い、デジタルアーカイブを活用した教材作りの広がり可能性を共有しました。今回作成された教材は、「S×UKILAM：Primary Source Sets／スキラム連携：多様な資料を活用した教材アーカイブ」（TRC-ADEAC株式会社／ADEACラボ）で公開しています。



[S×UKILAM：Primary Source Sets／スキラム連携：多様な資料を活用した教材アーカイブ](#)

特別コレクション「西村文庫」のご紹介

2023年3月より、本学の特別コレクション「西村文庫」の図書（約3,800冊）が蔵書検索（OPAC）で検索できるようになりました。西村文庫とは、2011年に株式会社サクラクレパス相談役・西村四郎氏から寄贈されたもので、明治初期教科書『西画指南』（日本で最初の図画教科書）をはじめとする図画教科書・美術教育著作物などが含まれるコレクションです。実物の閲覧をご希望の方は事前申請が必要になりますので、詳しくは「特別コレクションの利用について」をご覧ください。

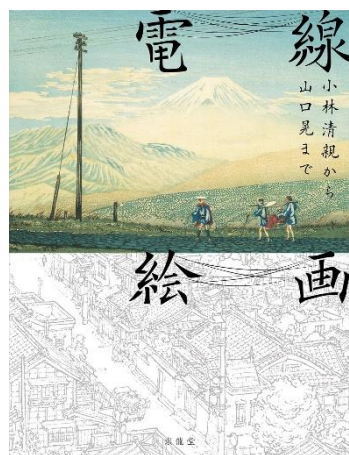


[東京学芸大学附属図書館、西村文庫](#)



[東京学芸大学附属図書館、特別コレクションの利用について](#)





『電線絵画：小林清親から
山口晃まで』
加藤陽介企画・編集
(求龍堂, 2021.3)
ISBN : 9784763021144
請求記号 : 720.87/KYU

電線や電柱は、とかく街の景観を損ねるものとして捉えられている。本書は、日常で悪者とされている電線や電柱に焦点をあて、日本の近代以降の絵画にどのように電線や電柱が描かれてきたかを追ったもので、2021年2月に練馬区立美術館で開催された特別展の展示図録である（一般書籍としても刊行されている）。

恥ずかしながら、当時はこの展示会の存在にも気が付かず、事後、書籍として知った。本書を知る少し前に、ある資料館で1950年代後半の宿場町の写真を見た。その宿場町の写真は、舗装されているが歩道と車道の区別のない街道を荷馬車が走り、街道脇には茅葺の民家が並ぶという、近代化とは程遠い風景写真だった。驚いたのはその中でも道路の両脇にはしっかりと木製電柱と電線が敷設されていたことだ。前近代を思わせる風景の中に近代化の象徴ともいえる電線や電柱が映る風景に、なんともミスマッチな印象をうける一方、日本の近代化や都市化の実情に衝撃を受け、自分自身が伝統的な街並みと考えていた‘電線のない’風景観に再考を促すこととなった。以降、景観やまち並み保存の中での電柱や電線の位置づけが気になっている。

本書に掲載された絵画をみると、およそ絵画の対象となるとは思えない電線や電柱が、近代以降の日常風景の構成要素として描かれてきたことがわかる。是非、本書を手にとって、日本人に「ノスタルジーとともに刻み込まれた景観」を感じて欲しい。

東京学芸大学附属特別支援学校 図書コーナー紹介

附属特別支援学校には、独立した「図書室」はありません。幼小中高それぞれの学部の教室近くに「図書コーナー」があり、本が並べられています。その図書コーナーを整備する学校司書も、月に1、2回程度の勤務しかありません。勤務のたびにそれぞれの図書コーナーをまわり、季節の本に入れ替えたり、飾りつけをしたりしますが、新しい本を買う予算もないため、なかなか厳しい読書環境なのです。

それでも、本を活用する授業も行われています。小学部では日常的に絵本が活用されており、年に一度の「絵本集会」※というイベントでは、司書も読み聞かせをします。中学部では、2学期の校外学習にあわせて調べ学習を行います。導入に、毎年司書が、調べ方の基本として、本の目次や索引の使い方を学ぶ授業を行っています。今年は図書館での本の探し方として、「分類番号の歌」を歌い、分類の基本も学びました。実際に調べるテーマの本は、学校にあるものでは全く足りないので、他の附属学校や、市立図書館の協力貸出を活用しています。少ない勤務ながら司書がいることでネットワークが使える強みはあるのですが、LLブックなど配慮の必要な生徒のための特別な図書は借りられないため、読書のバリアフリーを実現できるための予算の必要性を感じているところです。

※「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」の学校図書館の日常・読み聞かせ2023年7月更新記事に詳細あり。



小学部図書コーナー



小学部絵本集会



中学部総合学習のための
展示図書コーナー



中学部総合導入授業
司書 宮崎伊豆美)

(文責：東京学芸大学
附属特別支援学校
司書 宮崎伊豆美)



先生のための授業に役立つ
学校図書館活用データベース

図 書 館
か わ ら
ば ん

図書館かわらばん No. 10

2023年12月5日 発行

東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

TEL:042-329-7223 FAX:042-329-7226

URL:<https://lib.u-gakugei.ac.jp/>

東京学芸大学附属図書館公式X (Twitter) では図書館に関わるお知らせについていち早く発信しています。



[www.twitter.com/gakugei_lib](https://twitter.com/gakugei_lib)